

(2021年6月)

## ハイチ共和国・政治・経済・社会情勢月報

在ハイチ大使館

### <要点>

#### 【政治】

- 主要野党リーダーは、モイーズ大統領即時退陣を求め国民合意政府発足文書に署名（5日）
- 暫定選挙管理委員会（CEP）は新憲法国民投票と総選挙の日程延期を発表（7日）。
- 米州機構は、選挙実施に向けた与野党政治対話促進ミッション派遣（8—10日）。
- モイーズ大統領はトルコでエルドアン・トルコ大統領（19日）とケニヤッタ・ケニア大統領（20日）と会談。
- モイーズ大統領は、ギャングと闘うため国家警察の強化と国軍による支援を表明（20日）
- シルベストル破棄院長官が新型コロナウイルスに感染して死亡（23日）。
- 暫定選挙管理委員会は、9月26日に新憲法国民投票と大統領選・国民議会選第一回投票、11月21日に大統領選・国民議会選第二回投票、来年1月16日に地方選挙とする新たな選挙日程を発表（28日）。

#### 【経済】

- 台湾がコメの種苗増産プロジェクトに2.4百万ドルを追加支援（20日）。
- マネーロンダリングに関する金融活動作業部会（FATF）は、ハイチの銀行が麻薬取引に関わるマネーロンダリング対策を十分講じていないとしてグレーリストに分類（25日）。

#### 【社会】

- イタリア人技師がギャング400Mawozoによって誘拐（1日）。
- マルティサン地区の警察署がギャングによって占拠（4日）。
- シテソレイユ地区の複数の警察署がギャングに襲撃され、武器が強奪（5日）。
- ユニセフは、ギャングによる暴力により、二週間で首都圏8500人の女性・子供が住む家を追われたと発表（14日）。
- ギャング同盟G9リーダーのバーベキュは、G9は政権、野党、ブルジョワからハイチを解放する革命軍となる旨宣言（24日）。
- クロワ・デ・ブケ地区でギャングと警察との衝突が発生（25日）。シテソレイユ地区でギャング間抗争により40名が死亡（25日）。

### 1 政治

- 5日 主要野党リーダーが、現政府との与野党連携政府の発足を拒否し、モイーズ大統領の即時退陣を求め、国民合意政府を発足させる文書に署名した。
- 7日 暫定選挙管理委員会は、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、新憲法国民投票と総選挙の日程を延期する旨正式に発表した。
- 8日 米州機構（OAS）は、選挙実施に向けた与野党政治対話を促すためのミッションを派遣した。

構成員は、米、加、コスタリカ、エクアドル、セントビンセント・グレナディーン代表で構成され、3日間滞在した。

- 17日 安保理においてハイチに関する討議が行われ、ジョゼフ暫定首相兼外務大臣が出席した。
- 19日 モイーズ大統領は、アンタルヤ外交フォーラムに出席するためにトルコを訪れ、エルドアン・トルコ大統領と電力、治安、投資について議論した。そのほか、20日にケニヤッタ・ケニア大統領と会談した。
- 18日 中国外務省は、腐敗とギャング等によってハイチ国民の40%が食糧危機に直面する状況に言及しつつ、BINUHは期待された結果を出していないとした。
- 20日 モイーズ大統領は、トルコから帰国後、国家警察を強化してギャングと闘う姿勢を表明し、5-600名の国軍兵士にも支援させる旨述べた。
- 23日 シルベストル(Rene Sylvestre)破棄院長官が新型コロナウイルスに感染して死亡した。
- 24日 アリスティド元大統領(68歳)が新型コロナウイルスに感染して重篤化し、手当のためにキューバに搬送された。
- 28日 暫定選挙管理委員会(CEP)は、新たな選挙日程として、9月26日に憲法国民投票と大統領選・国民議会(上下院)選第一回投票を同時実施、11月21日に大統領選・国民議会(上下院)選第二回投票、来年1月16日に地方選挙の実施を発表した。立候補登録は7月6日までとし、選挙キャンペーン期間開始は8月26日とする。

## 2 経済

- 20日 台湾がコメの種苗増産プロジェクトに2.4百万ドルを追加支援する署名を行った。
- 25日 マネーロンダリングに関する金融活動作業部会(FATF)は、ハイチの銀行が麻薬取引に関わるマネーロンダリング対策を十分講じていないとしてグレーリストに分類した(25日)。

## 3 社会

- 1日 イタリア人技師がギャング・グループ400Mawozoによって誘拐され、身代金50万ドルが要求された。
- 4日 1日からマルティサン地区とグラン・ラヴィン地区のギャングの抗争が続いた後、マルティサン地区の警察署がギャングによって占拠され、銃や無線等が奪われる事件が発生した。
- 5日 シテソレイユ地区の複数の警察署(Carrefour Drouillard, E-Power, Station de Gonaive)がギャングに襲撃され、武器等が奪われる事件が発生した。
- 14日 ユニセフは、この二週間の間に首都圏で8500人の女性と子供がギャングによる暴力で住む家を追われたと発表した。また、国連によると、過去9か月間で首都圏の1万4千人が暴力により家を追われたと報じた。
- 18日 シャルル国家警察長官は、ギャングの所業がレッドラインを超えたとし、国家警察のプレゼンスを強化してギャングと闘う姿勢を表明した。
- 24日 ギャング同盟G9のリーダーである元警察官のジミー・シュリジエ(Jimmy Cherizier。別名バーベキュ)は、G9は政権、野党、ブルジョワからハイチを解放する革命軍となると宣言した。
- 24日 ペションビルから更にケンスコフ通りを上ったラブル(Laboule)地区で、警察によるギャングへの攻撃が行われた。6月に入り、同地区にて新たにギャング間抗争の発生が報告されていた。
- 25日 クロワ・デ・ブケ地区警察署周辺でギャングと警察との衝突が発生した。シテソレイユ地区でギャング間抗争により40名が死亡した。
- 29日 クリスト・ロワ、デルマ31地区において、武装した男数名が無差別に銃を乱射してジャーナリス

ト2名を含む11名が死亡する事件が発生した。